

グリーンインフラの推進を



る必要がある。

グリーンインフラとは、「**自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組**」のことである。

質問 “雨庭”とは、地上に降った雨水を直接下水道などに放流することなく、一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間の事である。本市も雨庭設置助成も加えるべきと考えるが、市の見解は？

答弁 現在、本市での雨水貯留浸透施設設置助成制度は、雨水の再利用等の促進や敷地からの流出抑制を目的として、一定の要件を満たす貯留施設等を設置した方への助成制度である。

雨庭については、流出抑制の手段の一つとして考えられるが、敷地からの流出抑制は兵庫県総合治水条例によって県民の責務であり、雨庭の流出抑制効果についての検証、といった課題もある。新たな助成制度の創設については、慎重に検討す

質問

夙川公園の桜について、樹木の育成には、水は絶対必要である。去年の夏のように記録的な暑さになれば、余計に水が必要である。従来通りの上水道による施設整備ではなく、**自然の雨水を利用した散水システムを検討してはどうか**と考えるが、市の見解は？

答弁

夙川公園では、枯死や樹勢が著しく悪化した桜の後継樹の植栽を進め、植栽後2年から3年の間は、新植した桜に対して、夏期に散水を実施している。雨水の利用については、雨水タンクを活用した散水が考えられるが、必要な水量の確保や、設置場所の問題から、実施は困難と考えている。近年、夏期に増加している桜の枯損への対策は、**猛暑に対応できる灌水の方法や、雨水を保持する土壌改良**を、河川管理者の兵庫県と協議しながら、引続き健全な桜並木の育成に努める。

意見

猛暑に対応できる灌水の方法や、雨水を保持する土壌改良を施して、雨水を利用した散水方法が実用化された際には、積極的に取り入れていただきたい。

ヨットについて



ることはできないか？

本市はヨットと深くつながっている側面がある。海洋冒険家の堀江健一さんが日本で初めて小型ヨット単独無寄港太平洋横断航海を成功させたときの出発点が西宮であり、御前浜や西宮浜などで見られるヨットの風景は、西宮の魅力的な景観を形成している。公共マリーナである「新西宮ヨットハーバー」は、兵庫県(出資金のうち34%)と西宮市(出資金のうち17%)が出資金の51%を負担し、第三セクターとして運営されている。ヨットのスポーツ競技として、去年の7月には「オープンスキフ世界選手権大会」も御前浜を拠点に開催された。

本市とヨットとの関係性を広く認知してもらうことは、まちの価値や魅力をさらに高めるちょっとしたアクセントになるのではないかと感じている。

質問 「新西宮ヨットハーバー」で西宮市民を対象としたクルージング体験のイベントを開催するなど、市民が少しでもヨットを身近に感じられるように、株主として提案す

答弁

運営会社である新西宮ヨットハーバー株式会社に対して、クルージング体験のイベントの開催ができないか申し入れる。

質問

ヨット体験をふるさと納税の返礼品とすることで、西宮とヨットとの関係性を市外にアピールできると考えるが、市の見解をご教示ください。

答弁

ふるさと納税の返礼品につきましては、去る2月16日に、新西宮ヨットハーバーにおける「ボート・ヨットの年間艇置料(ていちりょう)」を返礼品として運用を開始した。「ヨット体験」の返礼品については、安全な運営体制の確保や天候に左右されやすい点など課題を整理して、事業者提案する。



©新西宮ヨットハーバー

「カラフル～みんながつながるフェスティバル～2026」というイベントが開催されました。



障害福祉分野において、ガイドヘルパーやボランティアの激減により障害のある人が外に出て楽しめるイベントがなかなか無い、それなら自分たちで作ってしまおう！との思いから2019年にスタートしました。

コロナ禍で中断していましたが、去年2025年に復活開催されました。私も実行委員会の一員として、1年前からの企画の発案、当日の会場設営、司会、演奏と関わらせていた

いただきました。

西宮市は効率性だけでなく、“質”を重視した「人によりそう行政」であり続けたいという思いがあります。来場いただいた皆様、演者の皆様、ボランティアとして参加いただいた学生の皆様、みんなが笑顔で繋がったイベントとなりました。

